

青山学院大学 vs 平成国際大学

9月22日(日)
11:30K.O.
法大G

後半戦1勝2敗で順位を落とした青学大と、後半戦無敗の平国大との対戦。今回はスコアレスドローに終わっているが、今回は決着するか。

順位を一つ落としてしまった青学大。前節は東農大に1-2で敗れた。東国大を破って調子に乗る東農大に対し、立ち上がりの3分に自陣でのパスをカットされ、早々と得点を許してしまったことが痛かった。後半は青学大らしいパス回しと再三にわたるサイド攻撃で東農大ゴールを攻め立てたが、67分に追加点を許し、反撃は1点にとどまった。「後半は冷静に戦えたと思うけれど、前半は相手を見て自分たちで判断してのプレーができなかった。最初の段階でゲームをつくられることが多いので、自分たちの時間帯を早い段階からつくっていかなくてはいけない」(福永泰コーチ)。後半戦は3試合とも先行される展開となっているだけに、いかに先制点を奪えるかが課題となりそうだ。

対する平国大は前節、2位の駒大と対戦し、89分にMF 本田圭祐(4年)のゴールで追い付き1-1のドローに持ち込んだ。MF 本田はその前の試合でも88分に決勝点を奪っており、粘りの試合運びが光っている。駒大戦は、前半は相手にペースを握られ先制点を許したが、

PKのピンチを逃れ、最少失点に抑えたことも幸いした。西川誠太監督も「落ち着いてプレーできていた。自分たちのペースではない時にどうするか、という点では成長したのではないかと思う」と評価。前半戦は流れの悪い時に失点を重ねてしまったが、後半戦は3試合で2失点と失点を最小限に抑えられている。今節も青学大の攻撃を粘り強い守備で防ぎたい。

<出場停止>なし / 3回警告:なし
<前回の対戦>青学大0-0平国大

青学大		平国大	
31. 諸井	16. 恵	16. 増田	
4. 中村	18. 関谷	11. 千葉	
12. 高橋	34. 井端	26. 小松崎	
3. 早田	7. 荒木	6. 本田	
13. 久保		10. 堀越	
		9. 星子	
		30. 馬屋原	
		5. 鎌田	
		2. 須藤	
		19. 堀越	
		3. 深井	

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.13
編集:五味亜矢子 発行:関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ



リーグ戦折り返し、東農大が3位浮上!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグは折り返し点を迎え、前節より 2 巡目の対戦へ。台風の影響により 4 試合が火曜日・水曜日に延期された。第 11 節で初黒星を喫した東国大は拓大とスコアレスドロー、2 位の駒大も平国大と 1-1 のドローで、首位と 2 位との勝点差がなかなか縮まらない。さらに 3 位の関学大が法大に 1-3、5 位の青学大が東農大に 1-2 で敗れ、4 位の東学大は東海大と 1-1 で引き分け、後半戦に入って上位陣が低調なのが気になる。その中で東農大が 6 位から 3 位に順位を上げ、下位グループでは朝鮮大に 4-1 と快勝した神大が 8 位に浮上した。折り返し点を越えただけではあるが、1 位の東国大と 2 位の駒大をしっかりと追撃するチームが現れてこないと昇格争いが活性化しない。3 位以下のチームの奮起を期待したいところだ。逆に下位グループの追い上げが激しくなっており、3 位以下の勝点差はぐっと縮まった。今節も順位変動があるか!?

得点ランキング	アシストランキング
8: 小牟田洋佑 (駒大)	5: 佐伯 拓磨 (東国大)
山本 大貴 (駒大)	田中 雄一 (駒大)
7: 伊東 純也 (神大)	長野 祐太 (神大)
6: 星子 直哉 (平国大)	4: 碓井 鉄平 (駒大)
内野 裕太 (拓大)	今野 順 (東農大)
5: 全 5 名	3: 全 7 名

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第 12 節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	東農大	関学大	東学大	青学大	平国大	神大	拓大	法大	朝鮮大	東海大	勝数	負数	分点	得点	失点	得失差	勝点
1	東国大		100	102	401	201	302	111	100	301	400	201	300 (没収)	9	1	2	25	9	16	29
2	駒大	001		302	200	402	401	304	401	200	200	102	401	8	3	1	30	15	15	25
3	東農大	201	203		300	102	111	103	103	200	100	111	300 (没収)	6	4	2	20	15	5	20
4	関学大	104	002	003		400	010	300	002	201	201	400	300 (没収)	6	5	1	20	16	4	19
5	東学大	102	204	201	004		001	301	302	201	001	200	201	6	5	1	18	19	-1	19
6	青学大	203	104	111	010	100		010	201	100	401	102	201	5	4	3	16	15	1	18
7	平国大	111	403	301	003	103	010		103	302	111	100	203	4	4	4	18	21	-3	16
8	神大	001	104	301	200	203	102	301		205	102	201	102	5	7	0	22	23	-1	15
9	拓大	103	002	002	102	102	001	203	502		201	100	301	4	7	1	16	19	-3	13
10	法大	004	002	001	102	100	104	111	201	102		001	402	4	7	1	14	21	-7	13
11	朝鮮大	102	201	111	004	002	201	001	102	001	100		401	4	7	1	13	20	-7	13
12	東海大	003 (没収)	104	003 (没収)	003 (没収)	102	102	302	201	103	204	104		2	9	1	13	32	-19	7

※ 東海大は後半戦終了時点で勝点-6となります

東京国際大学 vs 法政大学

9月22日(日)
13:50K.O.
法大G

首位の東国大と後半戦2勝1敗の法大との対戦。法大は10位ではあるが内容が上向いてきており、同じ法大グラウンドで大敗した前回対戦の雪辱を狙う。

東国大は前節、拓大と対戦し0-0のドローに終わった。しかし、その前の試合でリーグ戦初黒星を喫し、さらに2人の出場停止とケガ人を抱え、「引き分けでも御の字」という状況ではあった。前田秀樹監督も「前節で負けてしまったので、この試合は引き分けでも良いから失点を0に抑えるということを話していた」と言うように、連敗しないことを最重要視したようだ。拓大にシュート数で上回られながら、最終ラインの身体を張った守りで無失点に抑えた。一方でリーグ戦では初の無得点に終わったことは、やや心配な材料か。「前半戦は勝っていたため、より良いサッカーをしようという気持ちが強くなり、思い切りの良さやリズムが少し遅れてしまっている」(前田監督)。攻撃のスピード感が戻るかどうか。

一方の法大は前節、3位の関学大を3-1で下し、降格圏を脱出した。試合開始早々に相手のシュートがバーを叩くなどピンチもあったが、前半は攻撃陣が積極的に仕掛けてシュート10本を放つと2点を先行。後半に1点を許すも、ロスタイムにダメ押し点を奪って試合を決

めた。FW 松本大輝(4年)を出場停止で欠いたが、FW 高橋健哉(3年)がうまく絡んで攻撃の起点となり、MF 松田有平(3年)は2得点1アシストの活躍を見せた。

「前半の入りは悪かったが、クロスから良いかたちで得点できた」(大石和孝監督)。立ち上がりの時間帯をケアし、先行する試合展開に持ち込みたい。

<出場停止>なし / 3回警告:赤崎俊太(東国大)、田代雅也・西室隆規(法大)
<前回の対戦>東国大4-0法大

東国大		法大	
6. 鹿糠	7. 佐藤	17. 森保	
5. 川島	12. 赤崎	24. 白石	
10. 若井		8. 大野	
21. 今野	14. 上船	1. 四宮	
3. 阿部	9. 福島	9. 深町	
2. 伊東	11. 高橋	6. 星	
		27. 田代	
		16. 松田	
		30. 永戸	

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています *

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント
戦いの中に、成長がある。
部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
<http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>
RECRUIT

東京農業大学 VS 拓殖大学

9月22日(日)
11:30K.O.
朝鮮大 G

6位から3位に順位を上げた東農大と、9位の拓大との対戦。前回は東農大の先制攻撃に完敗した拓大だが、2度目の対戦はいかに。

東農大は前節、青学大を2-1で下し、2連勝を飾った。その前の東国大戦は11分、青学大戦は3分に先制点を奪っており、立ち上がりの良さが光っている。その後、特に後半は青学大のサイド攻撃にさらされ押し込まれる時間も長かったが、「1点を守るのではなくもう1点を取りに行く」と、チームが守りに入らなかったのが良かった」と木村俊夫コーチが話したように、少ない反撃のチャンスを生かして追加点を奪い、1点を許したが逃げ切ることに成功した。今季、試合終盤での粘りには定評があったが、先制点を奪えるようになって試合を有利に進めている。先に点を取られた時の戦い方は課題ではあるが、今はこの勝ちパターンに自信が出てきているところだろう。連勝を続けることができるかどうか。

対する拓大は前節、東国大と対戦してスコアレスドローに終わった。首位のチームから勝点1を奪ったことは一定の成果ではあるが、内容的に見ればシュート数も上回り、勝機があったゲームだけに、ゴール前での精度の向上に期待したい。それでも、出場停止から戻ったFW

内野裕太(4年)が最前線で起点となり、何度も味方のシュートチャンスを演出。玉井朗監督も「シュートまでの形はできていた。練習してきたことや考えていることが出せた」と一定の評価を示した。ただ、順位を考えれば今後は競り合った試合をどれだけ勝ち切っていけるかが課題にもなる。持ち前の爆発力を見せられるかどうか。

<出場停止>なし / 3回警告: 村山翔(東農大)

<前回の対戦>東農大2-0拓大

東農大	拓大
27. 加藤	2. 三浦
19. 岡庭	20. 片
5. 櫻岡	11. 内野
6. 中垣内	31. 高橋
14. 石川	19. 菅能
30. 矢口	1. 大坪
11. 井上	
10. 浜田	6. 小野
3. 田村	24. 末松
18. 今野	4. 金子
23. 中西	18. 大森
	26. 小針

関東学院大学 VS 神奈川大学

9月22日(日)
11:30K.O.
東海大 G

順位を一つ落としてしまった関学大と、順位を上げた神大との対戦。後半戦初戦で対戦したばかりだが、その時は神大の快勝であった。関学大の雪辱なるか?

その関学大は前節、法大に1-3で敗れ、3位から4位に後退、昇格圏とは勝点6差がついてしまった。法大戦は立ち上がりビッグチャンスをつくったがクロスバーに嫌われ、その後は法大の攻撃の起点を止め切れず、前半だけで2失点を喫した。「前半は相手にうまく対応できなかった。後半は修正できたが、対応が遅れたのが敗因」と石村大監督が話したように、後半は1点を返して反撃に転じたが追いつくには至らず、ロスタイムにはさらに1点を許した。神大との前回の対戦での2失点は、崩されて奪われたものではなかったものの、後半戦3試合で6失点はやや気になる数字。「同じ相手に2回負けるわけにはいかない。内容にも結果にもこだわりたい」(石村監督)。攻撃で先手を取りたい。

一方の神大は前節、朝鮮大を4-1で下し、10位から8位に浮上した。朝鮮大には先制点を奪われる展開となったものの、失点の直後に同点とし、38分に相手に退場者が出たことから、その後は数的優位を生かして得点を重ねた。特に、CKからDF向山亮太(4年)の2得

点が効いた。相手に退場者が出たとはいえ、ようやく攻撃の良い形が見られ、「少しずつ良い方向に回り始めている。危ない時間を我慢してチャンスをしっかり決めていくというサイクルができてきた」と、高峯弘樹監督も手ごたえを感じた様子であった。ようやく上位グループとの差が縮まってきただけに、これを継続できるかがカギ。大事なゲームとなりそうだ。

<出場停止>なし / 3回警告: 土館賢人(関学大)

<前回の対戦>関学大0-2神大

関学大	神大
6. 木村	6. 秋山
9. 富樫	7. 長野
4. 久保	14. 芦野
7. 太田	5. 杉山
10. 橋村	28. 武田
1. 守山	21. 池村
14. 佐藤	16. 前田
3. 土館	10. 伊東
11. 萱沼	4. 向山
8. 山本	8. 須郷
5. 山口	3. 高木

東京学芸大学 VS 朝鮮大学校

9月22日(日)
13:50K.O.
朝鮮大 G

後半戦1勝1敗1分の東学大と、1勝2敗の朝鮮大という、いま一つ調子に乗り切れないチーム同士の対戦。前節大敗を喫した朝鮮大の立て直しがカギ。

東学大は前節、東海大と対戦して1-1の引き分けに終わった。相手に許したシュートはわずか1本という内容だったが、その1本を先制点につなげられてしまった。試合前に降った雨の影響があり、前半はお互いにロングボールを中心とした組み立てでやや低調な試合に。72分に先制点を許した後は猛攻を仕掛けて後半だけで12本ものシュートを放ったが、88分に奪ったPKで同点とするのが精一杯という試合内容であった。今季は前半戦から、主導権を握りながら決定力が課題となる試合が多い。「決定機を決め切る力、強い力が必要だった」と西園聡史監督も嘆く。昇格圏までは2勝の差がついているが、一度プレッシャーと悲壮感を解き放つことも必要かもしれない。切り替えて臨めるか。

対する朝鮮大は前節、神大に1-4と大敗し、連敗を喫してしまった。13分に幸先よく先制点を奪ったものの、その直後に同点弾を許し、さらに38分に退場者を出してゲームの流れを相手に渡してしまった。得点直後の失点と、後半にまったく同じ形のCKから2失点した

ことは大きな反省点だろう。結局、数的不利となつてからは思うように反撃できず、結局シュート1本に抑えられてしまった。「相手の背後を突いた得点の形は良かったが、自ら招いたミスが残念。自分たちのやりたいことを100%出せるようにやっていきたい」(金載東監督)。4失点は忘れ、朝鮮大らしい球際の強さから、攻撃につなげていきたい。

<出場停止>姜光(朝鮮大) / 3回警告: なし

<前回の対戦>東学大2-0朝鮮大

東学大	朝鮮大
5. 廣木	15. 趙顕一
8. 佐々木	9. 高尚人
4. 脇本	16. 韓勇俊
9. 岡	22. 慎鏞紀
15. 菅	17. 高志煌
12. 須賀	28. 金成大
23. 平田	6. 任良太
3. 成田	14. 朴利基
13. 中村	3. 李教俊
18. 五十嵐	7. 尹昌洙
20. 京田	23. 安泰永

駒澤大学 VS 東海大学

9月22日(日)
13:50K.O.
東海大 G

後半戦1勝1敗1分の駒大と、2敗1分の東海大。後半戦初勝利がほしい東海大だが、首位と勝点4差の駒大ももう負けられない。意地を見せるのはどちらか。

その駒大は前節、平国大と1-1で引き分け、首位の東国大とともに勝点1を積み上げるにとどまった。しかし、89分までリードを保っていたことを考えると、首位との勝点差を詰める絶好のチャンスだっただけに、秋田浩一監督も「後半はずっと相手ペースで、耐え切れればよかったが、最後に同点にされて残念」とうなだれた。前半は前線に速くボールを入れる駒大らしい攻撃が機能して先制。しかし、PKのチャンスを逃したことが結果的には痛かった。得点力ではリーグナンバーワンを誇るが、後半戦はやや攻守のバランスを欠いている。「もう引き分けや負けは厳しい。一戦一戦トーナメントのつもりでやらなければいけない」(秋田監督)。前半戦のような、粘り強い試合運びができるかどうか。

一方の東海大は前節、東学大と1-1で引き分け、後半戦初の勝点を手にしたものの、まだ勝利につながる自分たちのパターンは見えてこない。東学大戦は、前半はお互いに有効な攻撃の形をつくれず、後半に入ってワンチャンスを決めた東海大が先制したが、その後は東学大

の猛攻にあつて防戦一方となり、88分ついにPKを与えて同点弾を許した。後藤太郎監督が「ゾーンの設定、どこで中盤の網を引くか意識した展開にはなったと思うが…」と話したように、ある程度東学大の攻撃を封じることには成功したが、シュート1本に抑えられてはなかなか勝利は遠い。「左右のバランスが悪い」(後藤監督)という攻撃の修正に期待したい。

<出場停止>なし / 3回警告: 碓井鉄平(駒大)

<前回の対戦>駒大4-1東海大

駒大	東海大
3. 田中	26. 小野
18. 溝口	27. 北原
5. 伊藤	3. 小山
7. 碓井	25. 溝口
9. 小牟田	12. 佐藤
30. 吉岡	2. 太田代
22. 野村	29. 内山
6. 若山	13. 森田
4. 平尾	23. 木村
17. 平野	32. 宮地
13. 大木	17. 西村